

交野市教委ニュース

第116号（令和元年8月6日発行）

～第一中学校区における魅力ある学校づくり～

京都市立開晴かいせい小中学校・凌風りょうふう小中学校を視察しました！



第一中学校区における新しい学校の整備に向けて、主に同中学校区の教職員が参加し、施設一体型で小中一貫教育をすすめる京都市立開晴小中学校、京都市立凌風小中学校の学校施設を視察しました。

■開晴小中学校

5小2中を統合し平成23年度に開校して9年め、今年度は779人ほどの小・中学生が学ぶ施設一体型小中一貫校です。平成30年度から義務教育学校として運用を開始しました。児童・生徒が学ぶ地上3階地下2階の第一学舎（本学舎）とプール・第2体育館・地域開放スペースのある第二学舎（六原学舎）が150mほどの距離にあります。



児童・生徒の昇降口



教室前の広い廊下



メディアルーム
コンピュータールームが併設されている



教室前のオープンスペース
2教室分のスペースがある



ランチルーム



給食配膳室



地域・PTAルーム
隣に専用の出入り口がある

■凌風小中学校

3小1中を統合し平成24年度に開校して8年め、今年度は684人ほどの小・中学生が学ぶ施設一体型小中一貫校です。平成30年度から義務教育学校として運用を開始しました。

児童・生徒が学ぶ5階建ての本校地と第3体育館・第2グラウンドのある東和校地が道を挟んだ位置にあります。



1～4年生の教室（1,2階）
窓側にシューズポケットがあり直接出入りできる



高学年用の図書室
自習コーナー、コンピューターコーナーが併設されている



コミュニケーションスペース



開放感のある階段



広い廊下



中庭

両校とも広い廊下、ゆったりとした教室、ゆとりのある多目的スペース等、明るく開放感があり、随所に様々な工夫がみられました。

開晴小中学校では、MR（学びなおしの時間）として他学年の先生も入ったコース別の授業を今年度より始めたり、凌風小中学校では、4-3-2のステージ集会などの異学年交流が盛んにおこなわれていたり、昨年度より義務教育学校としてスタートした両校が、義務教育9年間の学びと育ちの充実に向けて推進されている様子を聞くことができました。

両校の視察をとおして、小中一貫教育を推進するのにふさわしい施設一体型小中一貫校のイメージを高めることができ、整備について今後検討するにあたり、大変参考になりました。


